第１節　大気汚染

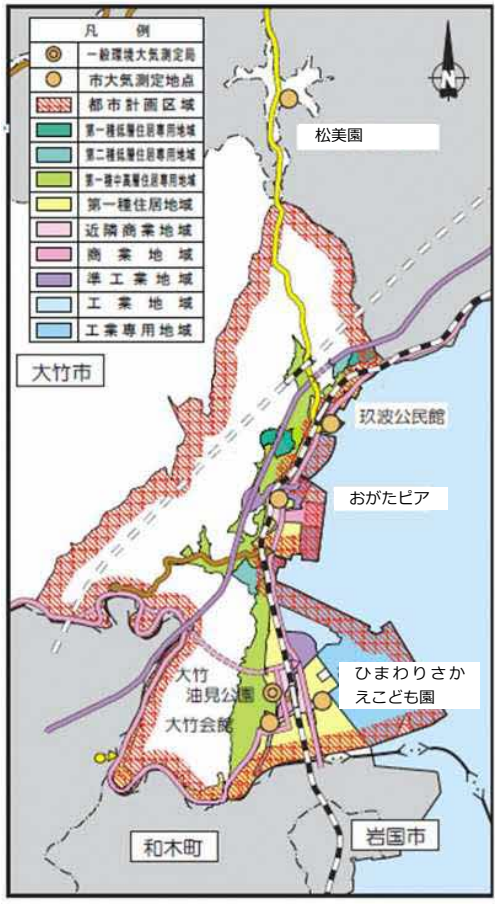
１　監視体制

本市では、一般環境測定局１局と市大気汚染測定５地点の合計６測定局で、光化学オキシダントや窒素酸化物など、各種汚染物質の監視・測定を行っています(図表 3-1-1 及び 3-1-2)。

補 足 メ モ

大気に関する物質を表す単位は ppm や ppb を用います。
ppm …100 万分の 1
ppb …10 億分の 1
➡ 1ppm は 1ppb の 1000 倍の数値
(例) 1 ppm の体積は 1 ㎥中に 1 ㎤含まれることを表します。

■図表 3-1-1　大気汚染監視測定局の位置図



■図表 3-1-2　大気汚染監視測定体制

地点名	地番	用途地域	測定項目										
			硫黄酸化物	窒素酸化物		ふんじん	気象			オキシダント	降下ばいじん	浮遊粒子状物質	微小粒子状物質
			自動測定器	自動測定器	簡易測定法	ハイボリウム	風向・風速	温度・湿度	日射				
玖波公民館	玖波２丁目	１種住居			○						○		
おがたピア（旧小方公民館）	小方１丁目	近隣商業			○						○		
ひまわりさかえこども園	西栄３丁目	１種住居			○						○		
油見公園	油見３丁目	１種住居	◎	◎			◎	◎	◎	◎		◎	◎
大竹会館	本町１丁目	１種住居			○	○					○		
松美園（旧松ケ原小学校）	松ケ原町	都市計画区域外			○								
管理主体			県	県	市	市	県	県	県	県	市	県	県

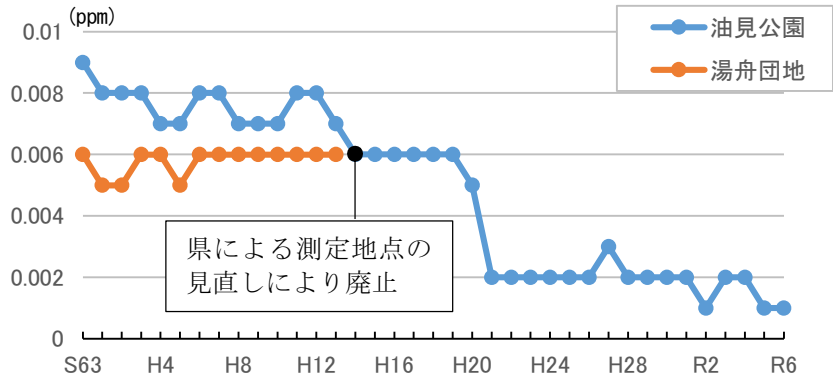
※◎はテレメーター接続。

2　現状

（１）硫黄酸化物

二酸化硫黄の経年変化は図表 3-1-3 のとおりです。令和 6 (2024) 年度の二酸化硫黄濃度は日平均値の 2%除外値は 0.003ppm で、0.04ppm を下回り、環境基準に適合しています（図表 3-1-4）。

■図表 3-1-3　二酸化硫黄の経年変化（年平均値）



〔資料：eco ひろしま〕

■図表 3-1-4　二酸化硫黄の環境基準との比較

測定局	有効測定日数	測定時間	年平均値 (ppm)	日平均値の 2%除外値 (ppm)	1 時間値が0.1 ppmを超えた		日平均値が0.04 ppmを超えた		2 日以上連続の有無	環境基準適否
					時間数	%	日数	%		
油見公園	363	8,654	0.001	0.003	0	0.0	0	0.0	無	適

環境基準

1 時間値の日平均値が 0.04ppm 以下であり、1 時間値が 0.1ppm 以下であること。
※日平均値の 2%除外値と比較して評価を行う。ただし、環境基準を超える日が 2 日以上連続した場合には非達成とする。

詳細データ

※機器の修繕や点検のため欠測の場合あり。以下同じ。

二酸化硫黄濃度月別測定結果表（導電率法）

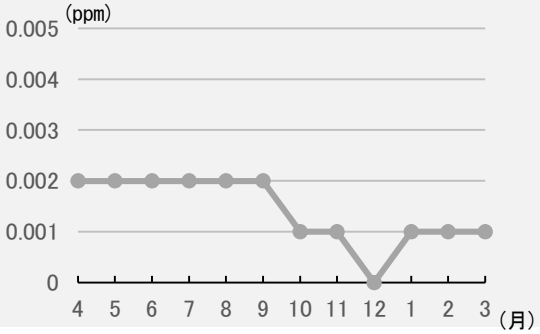
項目＼月	令和６年									令和７年			年間
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
有効測定日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	29	363
測定時間	715	738	713	735	734	715	739	714	738	737	667	709	8,654
平均値（ppb）	2	2	2	2	2	2	1	1	0	1	1	1	1.4
1 時間最高値（ppb）	19	11	11	12	13	9	7	18	6	11	23	9	23
日平均値最高値（ppb）	4	3	3	3	3	3	3	3	2	2	3	3	4
1 時間値が 0.1ppm を超えた時間数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
日平均値が 0.04ppm を超えた日数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

二酸化硫黄時間別平均濃度比較表（単位:ppb）

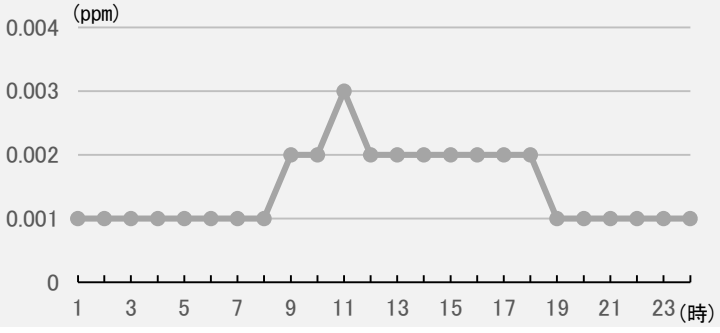
時期間＼時	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	平均
暖房期	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2	2	1	1	2	1	1	1	1	1	0	0	0	0.7
非暖房期	1	1	1	1	1	1	1	1	2	3	3	3	3	3	2	2	2	2	2	2	1	1	1	1	1.7
年間平均	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	3	2	2	2	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1	1.3

※非暖房期：4 月～10 月、暖房期：11 月～3 月

経月変化



経時変化

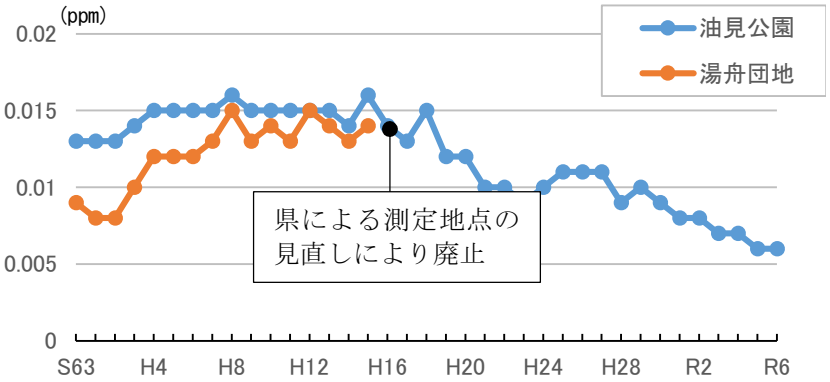


（２）窒素酸化物

二酸化窒素の経年変化は図表 3-1-5 のとおりです。令和６(2024)年度の二酸化窒素濃度は日平均値の 98%値は 0.014ppm で、0.04ppm を下回り、環境基準に適合しています（図表 3-1-6）。

※環境基準が設定されているのは二酸化窒素のみ。

■図表 3-1-5　二酸化窒素の経年変化（年平均値）



〔資料：eco ひろしま〕

■図表 3-1-6　二酸化窒素の環境基準との比較

測定局	有効測定日数	測定時間	年平均値(ppm)	日平均値の98%値(ppm)	日平均値が0.06ppmを超えた		日平均値が0.04ppm以上で0.06ppm以下		環境基準適否
					日数	%	日数	%	
油見公園	356	8,533	0.006	0.017	0	0.0	0	0.0	適

環境基準

１時間値の日平均値　0.04ppm から 0.06ppm までのゾーン内またはそれ以下であること。
※日平均値の年間 98%値と比較して評価を行う。

詳細データ

二酸化窒素濃度測定結果表（吸光光度法）

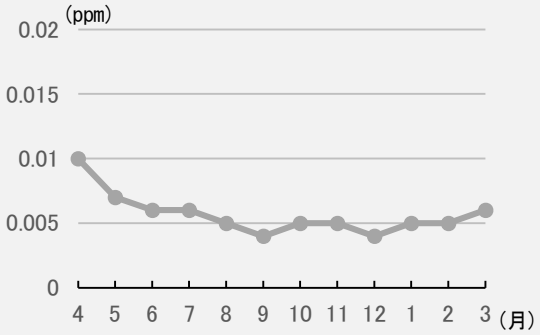
項目＼月	令和６年									令和７年			年間
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
有効測定日数	30	31	28	31	31	28	31	30	30	31	28	27	356
測定時間	710	738	678	735	736	693	736	714	724	735	667	667	8,533
平均値(ppb)	10	7	6	6	5	4	5	5	4	5	5	6	5.7
１時間最高値(ppb)	40	31	23	30	25	21	22	22	19	30	29	35	40
日平均値最高値(ppb)	19	15	13	18	11	8	8	9	9	13	12	14	19
有効日平均値が0.06ppmを超えた日数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

二酸化窒素時間別平均濃度比較表（単位:ppb）

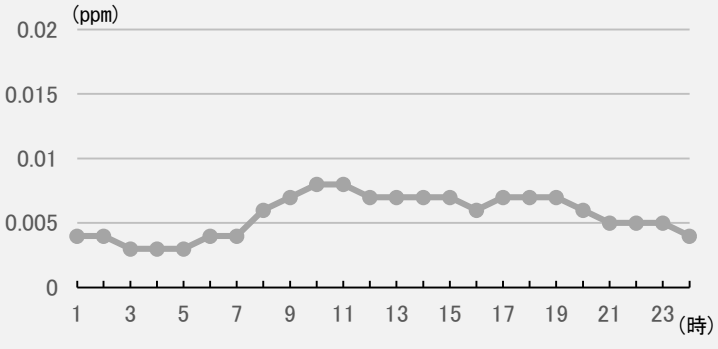
期間＼時	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	平均
暖房期	4	3	4	3	3	4	5	6	6	6	6	6	6	6	6	5	6	6	6	6	5	5	4	4	5.0
非暖房期	4	4	3	3	4	4	4	5	8	10	10	8	8	8	7	7	7	7	7	6	6	5	5	4	6.0
年間平均	4	4	3	3	3	4	4	6	7	8	8	7	7	7	7	6	7	7	7	6	5	5	5	4	5.6

※非暖房期：４月～10 月、暖房期：11 月～３月

経月変化



経時変化



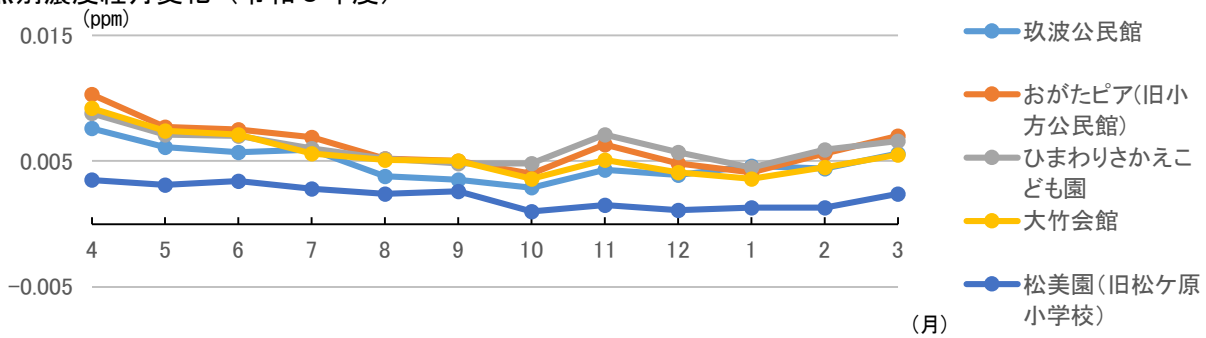
補足データ

●二酸化窒素[簡易測定法による測定]

地点別濃度比較表（単位:ppb）

測定地点＼月	令和６年 4	5	6	7	8	9	10	11	12	令和７年 1	2	3	年間
玖波公民館	7.6	6.1	5.7	5.9	3.8	3.5	2.9	4.3	3.9	4.6	4.4	5.6	4.9
おがたピア(旧小方公民館)	10.3	7.7	7.5	6.9	5.2	5.0	4.0	6.3	4.8	4.1	5.6	7.0	6.2
ひまわりさかえこども園	8.8	7.1	7.0	6.0	5.2	4.8	4.8	7.1	5.7	4.5	5.9	6.6	6.1
大竹会館	9.2	7.4	7.1	5.6	5.1	5.0	3.6	5.1	4.1	3.6	4.5	5.5	5.5
松美園（旧松ケ原小学校）	3.5	3.1	3.4	2.8	2.4	2.6	1.0	1.5	1.1	1.3	1.3	2.4	2.2
全市平均	7.9	6.3	6.1	5.4	4.3	4.2	3.3	4.9	3.9	3.6	4.3	5.4	5.0

地点別濃度経月変化（令和６年度）



●一酸化窒素及び窒素酸化物[測定地点：油見公園]

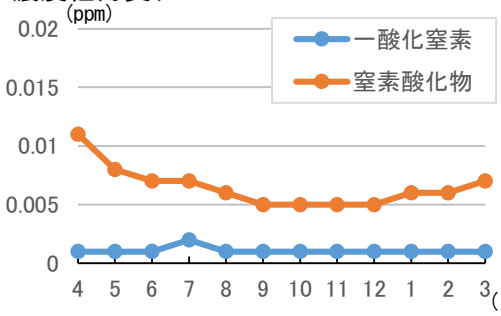
月別濃度測定結果表

物質 測定項目＼月	令和６年 4	5	6	7	8	9	10	11	12	令和７年 1	2	3	年間
一酸化窒素 有効測定日数	30	31	28	31	31	28	31	30	30	31	28	27	356
一酸化窒素 測定時間	710	738	678	733	736	693	736	714	724	735	667	667	8,533
一酸化窒素 平均値(ppb)	1	1	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1.1
一酸化窒素 １時間最高値(ppb)	17	13	16	46	16	15	10	11	15	11	14	16	46
一酸化窒素 日平均値最高値(ppb)	3	2	2	8	4	2	1	2	2	2	2	2	8
窒素酸化物 有効測定日数	30	31	28	31	31	28	31	30	30	31	28	27	356
窒素酸化物 測定時間	710	738	678	735	736	693	736	714	724	735	667	697	8,533
窒素酸化物 平均値(ppb)	11	8	7	7	6	5	5	5	5	6	6	7	6.5
窒素酸化物 １時間最高値(ppb)	49	39	39	70	38	32	28	32	32	41	37	51	70
窒素酸化物 日平均値最高値(ppb)	22	17	13	26	15	9	9	10	11	14	13	15	26

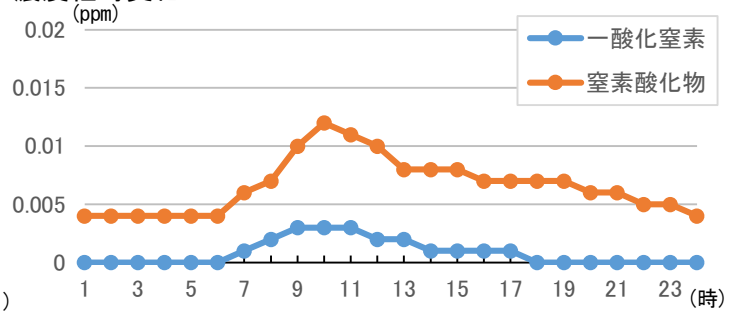
時間別平均濃度比較表(単位:ppb)

測定物質＼時	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	平均
一酸化窒素	0	0	0	0	0	0	1	2	3	3	3	2	2	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0.9
窒素酸化物	4	4	4	4	4	4	6	7	10	12	11	10	8	8	8	7	7	7	7	6	6	5	5	4	6.5

濃度経月変化



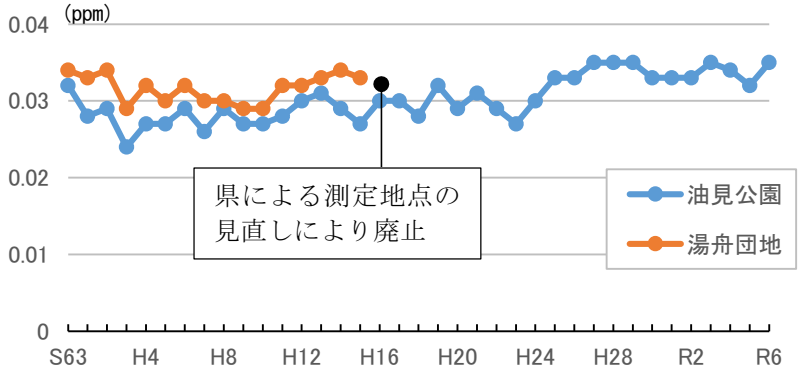
濃度経時変化



（３）オキシダント

光化学オキシダントの経年変化は図表 3-1-7 のとおりです。光化学オキシダントは、全国的に環境基準の達成が難しい項目であり、本市においても、令和６(2024)年度も達成できていません(図表 3-1-8)。

■図表 3-1-7　光化学オキシダントの経年変化（昼間の年平均値）



〔資料：eco ひろしま〕

■図表 3-1-8　光化学オキシダントの環境基準との比較

測定局	昼間測定日数	昼間測定時間	昼間の年平均値(ppm)	昼間の１時間値が0.06ppmを超えた		昼間の１時間値が0.12ppmを超えた		昼間の1時間値の最高値(ppm)	環境基準適否
				日数	%	日数	%		
油見公園	365	5,415	0.035	66	18.1	0	0.0	0.098	否

環境基準

１時間値　0.06ppm 以下であること。
※１時間値の最高値と比較して評価を行う。

補足データ

オキシダント情報等の発令状況

	R2	R3	R4	R5	R6
情報	0	1	0	0	0
注意報	0	0	0	0	0

発令基準

１時間値が
0.10ppm 以上　情　報
0.12ppm 以上　注意報
0.40ppm 以上　警　報

詳細データ

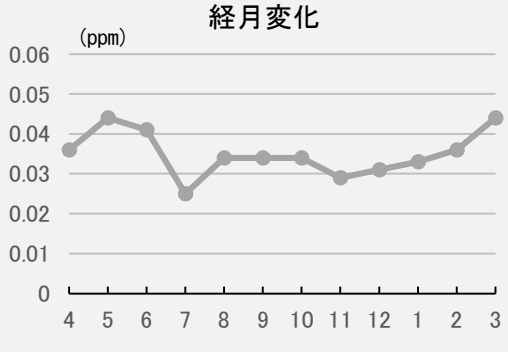
光化学オキシダント濃度測定結果表

項目＼月	令和６年									令和７年			年間
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
昼間の測定日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
昼間の測定時間	440	463	441	450	460	447	462	448	460	463	418	463	5,415
昼間の１時間値が0.06ppmを超えた日数	8	13	8	3	14	8	3	1	0	0	1	7	66
昼間の１時間値が0.06ppmを超えた時間	27	65	44	19	58	39	8	1	0	0	4	61	326
昼間の１時間値の最高値(ppb)	74	80	80	89	79	84	70	62	57	59	64	98	98
昼間の日最高１時間値の月間平均値(ppb)	51	58	57	40	52	52	47	40	41	43	45	56	48.5
昼間の月平均値(ppb)	36	44	41	25	34	34	34	29	31	33	36	44	35.1

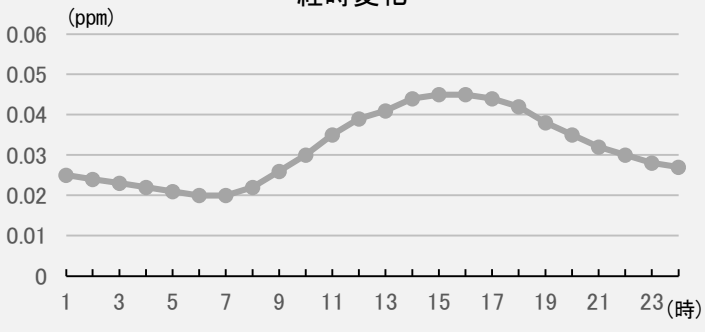
光化学オキシダント時間別平均濃度比較表(単位:ppb)

時	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	平均
濃度	25	24	23	22	21	20	20	22	26	30	35	39	41	44	45	45	44	42	38	35	32	30	28	27	31.6

経月変化



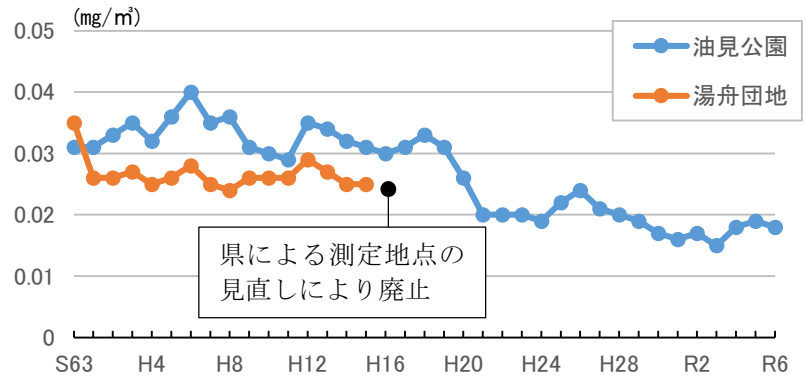
経時変化



（４）浮遊粒子状物質

浮遊粒子状物質の経年変化は図表 3-1-9 のとおりです。令和６(2024)年度の浮遊粒子状物質濃度は日平均値の2%除外値は0.038 mg/m³で、0.10 mg/m³を下回り、環境基準に適合しています（図表 3-1-10)。

■図表 3-1-9　浮遊粒子状物質の経年変化（年平均値）



〔資料：eco ひろしま〕

■図表 3-1-10　浮遊粒子状物質の環境基準との比較

測定局	有効測定日数	測定時間	年平均値 (mg/m³)	日平均値の2%除外値 (mg/m³)	1時間値が0.2mg/m³を超えた		日平均値が0.10mg/m³を超えた		1時間値の最高値 (mg/m³)	環境基準適否
					時間数	%	日数	%		
油見公園	360	8,657	0.018	0.038	0	0.0	1	0.3	0.155	適

環境基準　日平均値 0.10 mg/m³以下であり、１時間値 0.20 mg/m³以下であること。
※日平均値の 2%除外値と比較して評価を行う。ただし、環境基準を超える日が 2 日以上連続した場合には非達成とする。

詳細データ

浮遊粒子状物質濃度測定結果表

項目＼月	令和６年									令和７年			年間
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
有効測定日数	30	31	30	31	30	26	31	30	31	31	28	31	360
測定時間	719	743	716	743	737	645	743	718	741	743	670	739	8,657
平均値(μg/m³)	28	21	20	21	23	22	14	14	11	15	13	19	18.4
１時間最高値(μg/m³)	155	53	59	52	57	49	38	45	36	53	63	64	155
日平均値最高値(μg/m³)	108	36	39	32	36	40	24	28	20	33	33	46	108
1時間値が0.20mg/m³を超えた時間	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
日平均値が0.10mg/m³を超えた日数	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1

浮遊粒子状物質時間別平均濃度比較表(単位：μg/m³)

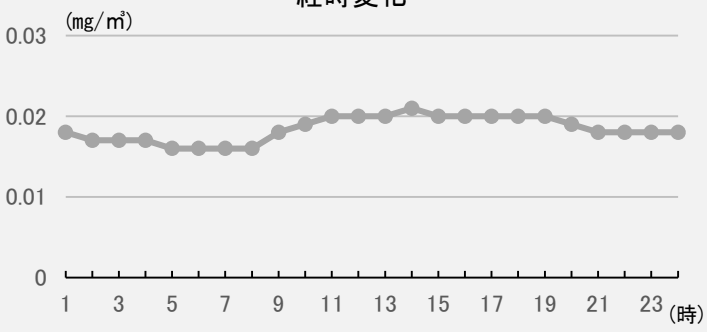
時＼期間	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	平均
暖房期	14	13	13	13	12	12	13	13	13	14	15	16	17	17	17	15	16	15	16	15	14	14	14	14	14.4
非暖房期	20	19	19	19	18	18	18	19	22	23	23	22	22	23	23	23	23	23	23	22	21	21	21	20	21.1
年間平均	18	17	17	17	16	16	16	16	18	19	20	20	20	21	20	20	20	20	20	19	18	18	18	18	18.3

※非暖房期：4 月～10 月、暖房期：11 月～3 月

経月変化



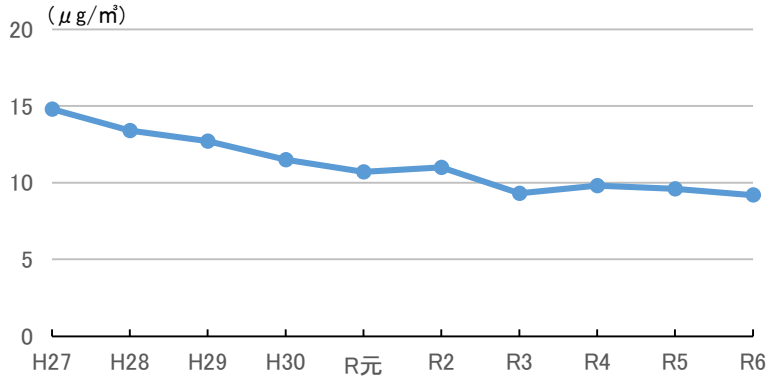
経時変化



（５）微小粒子状物質[PM2.5]

微小粒子状物質の経年変化は図表 3-1-11 のとおりです。令和６(2024)年度の微小粒子状物質濃度の年平均値は 9.2 μg/m³で 15 μg/m³を下回り、また日平均値の 98%値も 22.2 μg/m³で 35 μg/m³を下回り、環境基準に適合しています（図表 3-1-12）。

■図表 3-1-11　微小粒子状物質の経年変化（年平均値）



〔資料：eco ひろしま〕

■図表 3-1-12　微小粒子状物質の環境基準との比較

測定局	有効測定日数	測定時間	年平均値 (μg/m³)	日平均値の98%値 (μg/m³)	日平均値が35μg/m³を超えた		環境基準適否
					日数	%	
油見公園	360	8,652	9.2	22.2	1	0.3	適

環境基準

年平均値が 15 μg/m³以下であり、かつ日平均値が 35 μg/m³以下であること。
※日平均値は年間 98%値と比較して評価を行う。

詳細データ

微小粒子状物質濃度測定結果表

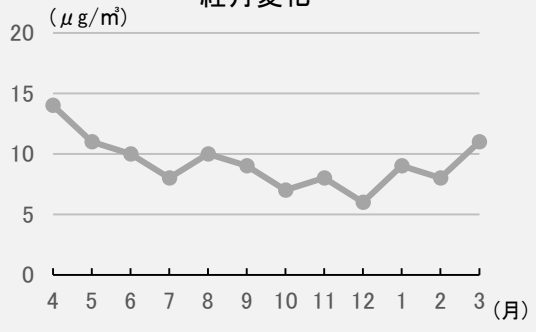
項目＼月	令和６年									令和７年			年間
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
有効測定日数	30	31	30	31	31	26	31	30	31	31	27	31	360
測定時間	717	743	719	742	740	641	743	717	742	742	664	742	8,652
平均値(μg/m³)	14	11	10	8	10	9	7	8	6	9	8	11	9.3
１時間最高値(μg/m³)	51	37	30	28	26	29	20	30	23	45	39	45	51
日平均値最高値(μg/m³)	35	23	17	16	17	22	14	19	12	24	22	28	35
日平均値が35μg/m³を超えた日数	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1

微小粒子状物質時間別平均濃度比較表（単位：μg/m³）

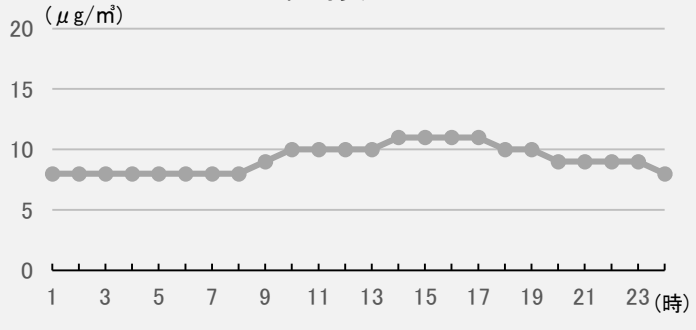
期間＼時	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	平均
暖房期	8	8	7	7	7	7	8	7	8	9	9	10	10	10	10	9	9	9	9	8	8	8	8	8	8.3
非暖房期	9	8	8	8	8	8	8	9	10	11	11	11	11	11	11	11	12	11	11	10	10	10	9	9	9.8
年間平均	8	8	8	8	8	8	8	8	9	10	10	10	10	11	11	11	11	10	10	9	9	9	9	8	9.2

※非暖房期：4 月～10 月、暖房期：11 月～3 月

経月変化



経時変化



（６）大気汚染公害苦情件数

大気汚染公害苦情件数の経年変化は、図表 3-1-13 のとおりです。苦情件数のほとんどは野焼き（廃棄物等の野外焼却）で占められています。

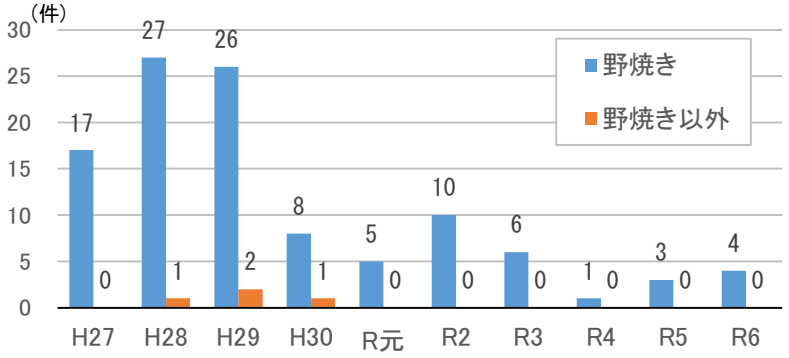
（７）酸性雨

令和６(2024)年度の pH の平均値は、おおむね 5.0 前後で推移し、酸性雨とされる pH は観測されていません。

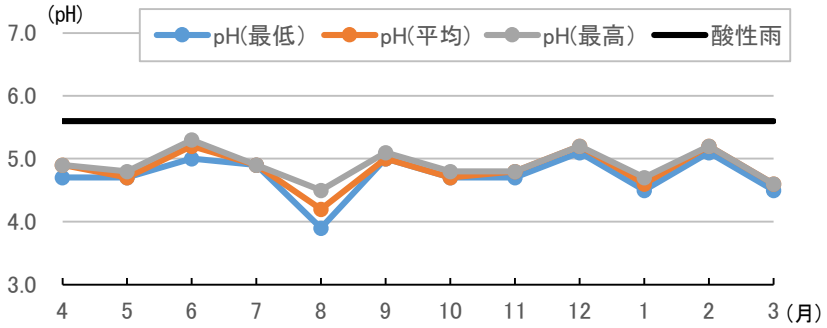
補 足 メ モ

大気中の二酸化炭素が十分溶け込んだ場合の pH が 5.6 であるため、これが酸性雨の一つの目安となる。

■図表 3-1-13　大気汚染公害苦情件数



■図表 3-1-14　雨水 pH の経月変化

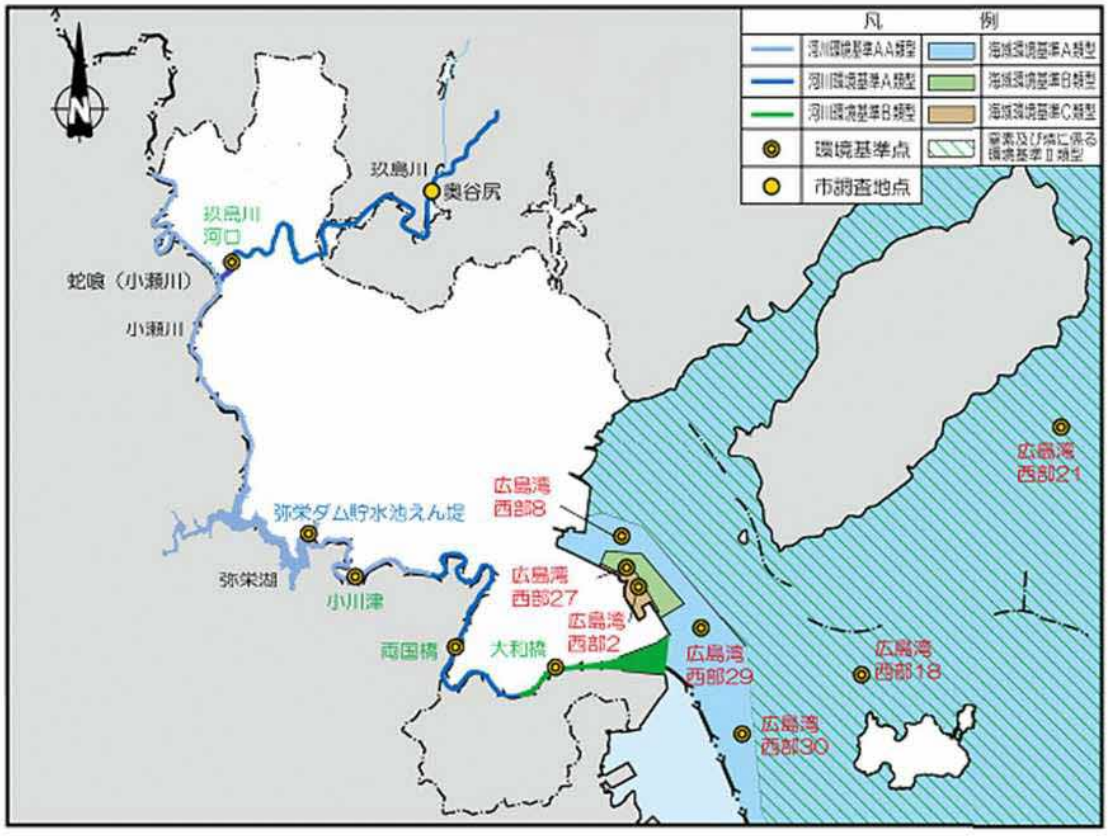


第２節　水質汚濁

１　監視体制

本市では、市調査地点１地点、県調査地点 12 地点の合計 13 地点で、DO（溶存酸素量）、COD（化学的酸素要求量）、BOD（生物化学的酸素要求量）など各種項目の監視・測定を行っています（図表 3-2-1）。

■図表 3-2-1　水質汚濁監視・測定点の位置図



２　現状

（１）河川

BOD（生物化学的酸素要求量）の経年変化は図表 3-2-3～3-2-5 のとおりです。

令和６(2024)年度の BOD は、図表 3-2-2 に示すとおり、環境基準に適合しています。

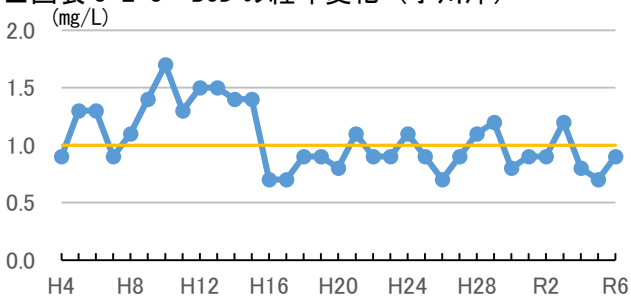
■図表 3-2-2　BOD の環境基準との比較

水系名	測定地点名	類型	BOD75%値 (mg/L)	環境基準値 (mg/L)	環境基準適否
小瀬川	小川津	AA	0.9	1 以下	適
	両国橋	A	0.8	2 以下	適
	大和橋	B	1.0	3 以下	適
	玖島川河口	A	0.5	2 以下	適

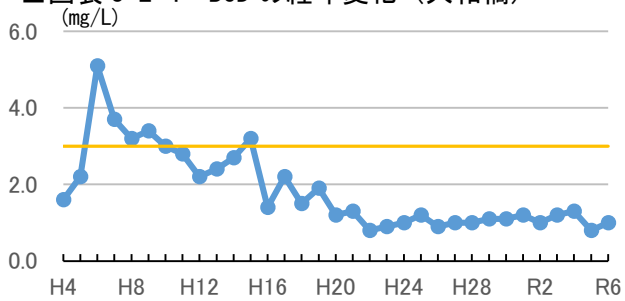
〔資料：eco ひろしま〕

※環境基準については資料編 P9 を参照。

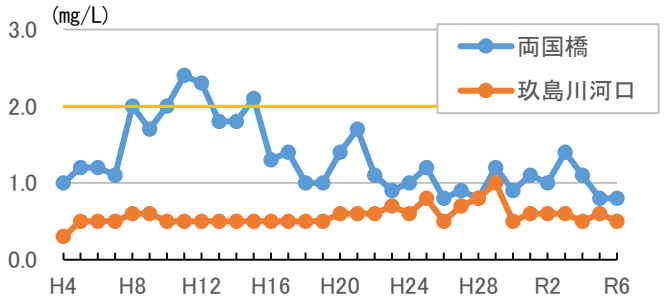
■図表 3-2-3　BOD の経年変化（小川津）



■図表 3-2-4　BOD の経年変化（大和橋）



■図表 3-2-5　BOD の経年変化（両国橋、玖島川河口）



▸測定値が報告下限値未満の場合は「<(報告下限値)」と記す。

▸「m」は環境基準を達成しない検体数を、「n」は総検体数を表す。

詳細データ

河川測定地点別汚濁状況

項目	小川津		両国橋		大和橋		玖島川河口	
	最小～最大	m/n	最小～最大	m/n	最小～最大	m/n	最小～最大	m/n
pH	6.7～7.4	0/12	6.7～7.4	0/12	6.7～7.4	0/24	7.0～7.6	0/12
DO (mg/L)	7.8～11.0	0/12	8.1～12.0	0/12	8.0～12.0	0/24	8.0～12.0	0/12
BOD (mg/L)	<0.5～2.0	2/12	<0.5～2.0	0/12	<0.5～1.5	0/24	<0.5～0.7	0/12
SS (mg/L)	<1.0～2.0	0/12	1.0～3.0	0/12	<1.0～2.0	0/24	<1.0～<1.0	0/12
大腸菌数 (CFU/100mL)	7.0～75.0	6/12	8.0～120.0	7/12	6.0～120.0	-/24	5.0～71.0	-/12

〔資料：eco ひろしま〕

補足データ

▸ 市調査結果（令和６年度）

測定場所	奥谷尻
水系名	小瀬川
類型	A
ＢＯＤ７５％値	0.25mg/L
環境基準適否	適

項目	平均	最大	最少
pH	7.4	7.6	7.3
DO (mg/L)	9.5	12.0	7.7
BOD (mg/L)	0.3	0.6	<0.5
SS (mg/L)	0.8	1.0	<1.0
大腸菌数 (CFU/100mL)	37	180	1

（２）海域

ア　COD（化学的酸素要求量）

COD の経年変化は図表 3-2-7～3-2-8 のとおりです。

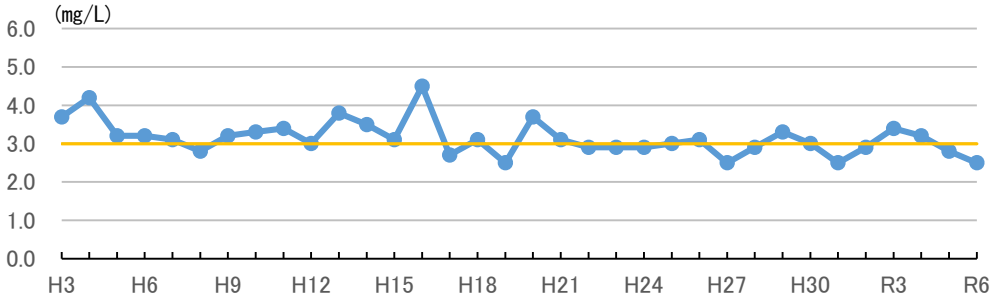
令和６(2024)年度の COD は、広島湾西部 27 で環境基準に適合しているが、それ以外の調査地点では環境基準に適合していません。

■図表 3-2-6　COD の環境基準との比較

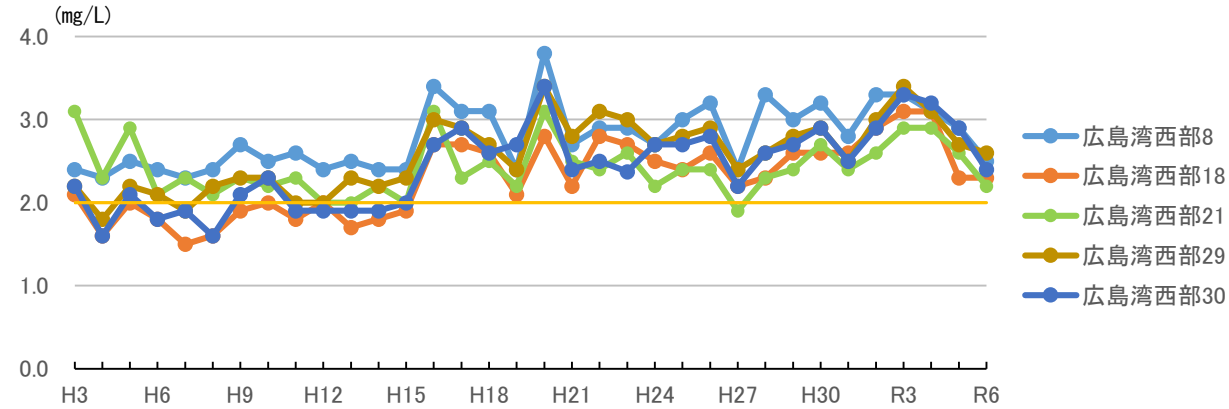
測定地点名		類型	COD75%値 (mg/L)	環境基準値 (mg/L)	環境基準適否
広島湾西部	27	B	2.5	3 以下	適
	8	A	2.5	2 以下	否
	18		2.3		否
	21		2.2		否
	29		2.6		否
	30		2.4		否

〔資料：eco ひろしま〕

■図表 3-2-7　COD の経年変化（広島湾西部 27）



■図表 3-2-8　COD の経年変化（広島湾西部）



詳細データ

海域測定地点別汚濁状況

項目	広島湾西部 8		広島湾西部 18		広島湾西部 21	
	最小～最大	m/n	最小～最大	m/n	最小～最大	m/n
pH	7.8～8.3	0/36	8.0～8.3	0/36	7.9～8.4	2/36
DO (mg/L)	2.9～10.0	14/36	5.6～10.0	15/36	4.7～9.5	18/36
COD (mg/L)	1.4～4.2	24/36	1.3～3.7	14/36	1.2～4.3	14/36
油分等 (n-ﾍｷｻﾝ) (mg/L)	<0.5～<0.5	0/2	<0.5～<0.5	0/2	<0.5～<0.5	0/2
大腸菌数(CFU/100mL)	<1.0～3.0	0/12	<1.0～ 1.0	0/12	<1.0～1.0	0/12

項目	広島湾西部 27		広島湾西部 29		広島湾西部 30	
	最小～最大	m/n	最小～最大	m/n	最小～最大	m/n
pH	7.8～8.3	0/36	7.9～8.4	1/36	7.9～8.3	0/36
DO (mg/L)	3.0～10.0	2/36	4.0～10.0	17/36	5.3～9.9	14/36
COD (mg/L)	1.2～4.1	6/36	1.2～4.5	17/36	1.3～4.6	17/36
油分等 (n-ﾍｷｻﾝ) (mg/L)	<0.5～<0.5	0/2	<0.5～<0.5	0/2	<0.5～<0.5	0/2
大腸群数(CFU/100mL)	<1.0～9.0	-/12	<1.0～7.0	0/12	<1.0～2.0	0/12

〔資料：eco ひろしま〕

イ　全窒素

全窒素の経年変化は図表 3-2-10 のとおりです。

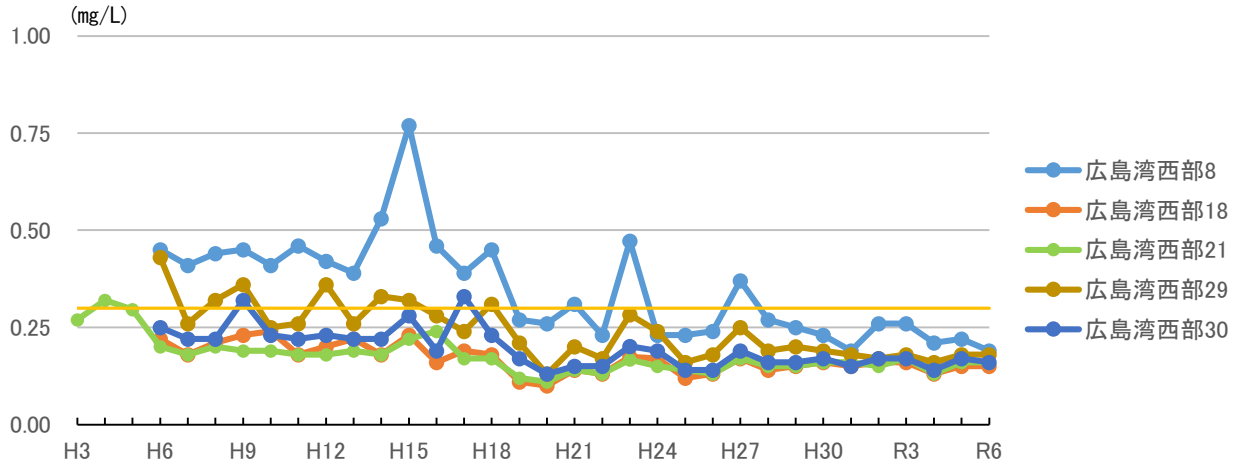
令和６（2024）年度の全窒素は、図表 3-2-9 に示すとおり、全ての調査地点で、環境基準に適合しています。

■図表 3-2-9　全窒素の環境基準との比較

測定地点名		類型	年平均値 (mg/L)	環境基準値 (mg/L)	環境基準適否
広島湾西部	8	Ⅱ	0.19	0.3 以下	適
	18		0.15		適
	21		0.16		適
	29		0.18		適
	30		0.16		適

〔資料：eco ひろしま〕

■図表 3-2-10　全窒素の経年変化（広島湾西部）



ウ　全リン

全リンの経年変化は図表 3-2-12 のとおりです。

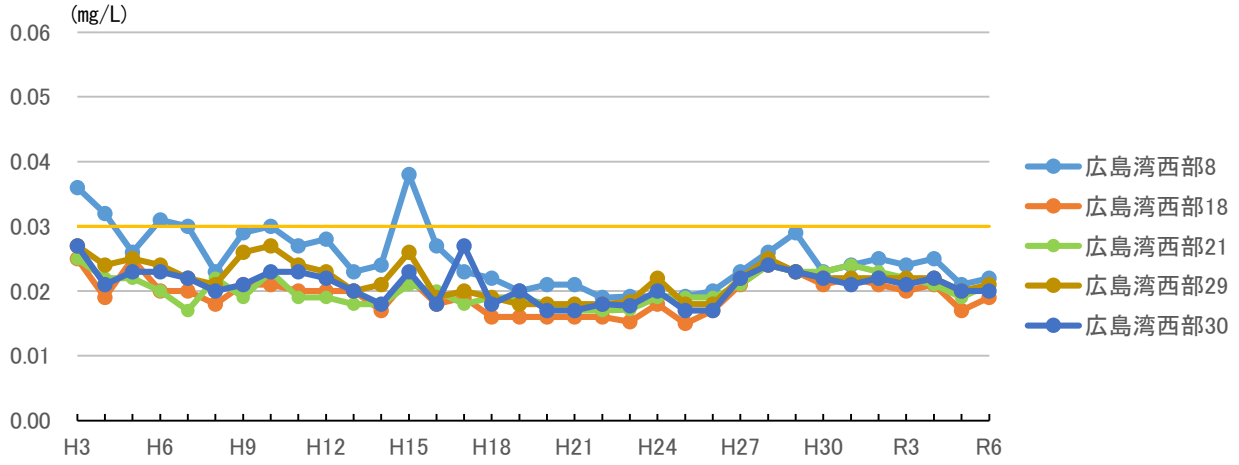
令和６（2024）年度の全リンは、図表 3-2-11 に示すとおり、全ての調査地点で、環境基準に適合しています。

■図表 3-2-11　全リンの環境基準との比較

測定地点名		類型	年平均値 (mg/L)	環境基準値 (mg/L)	環境基準適否
広島湾西部	8	Ⅱ	0.022	0.03 以下	適
	18		0.019		適
	21		0.021		適
	29		0.021		適
	30		0.020		適

〔資料：eco ひろしま〕

■図表 3-2-12　全リンの経年変化（広島湾西部）



（３）湖沼

ア　COD（化学的酸素要求量）

COD の経年変化は図表 3-2-14 のとおりです。

令和６(2024)年度の COD の日間平均値の 75%値は 2.0 mg/L で、3.0mg/L を下回り、環境基準に適合しています（図表 3-2-13）。

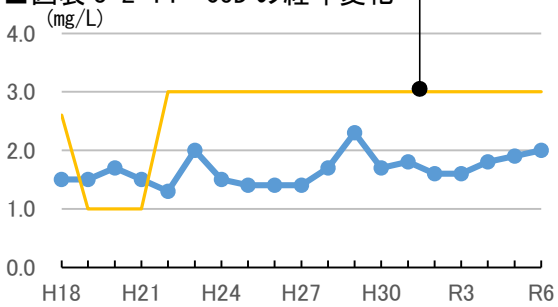
■図表 3-2-13　COD の環境基準との比較

測定地点名	類型	COD75%値 (mg/L)	環境基準値 (mg/L)	環境基準適否
弥栄ダム貯水池えん堤	A	2.0	3 以下	適

〔資料：eco ひろしま〕

※H13 に AA 類型指定されたが、H18 までは暫定目標 2.6mg/L。(H19 からは 1.0mg/L)
※H22.9 に AA 類型から A 類型に変更。

■図表 3-2-14　COD の経年変化



詳細データ

湖沼測定地点別汚濁状況（令和６年度）

項目	弥栄ダム貯水池えん堤	
	最小～最大	m/n
pH	6.1～7.4	2/36
DO (mg/L)	0.9～11	7/36
COD (mg/L)	1.0～2.9	0/36
SS (mg/L)	<1.0～9	2/36
大腸菌数 (CFU/100mL)	<1.0～52	0/36

〔資料：eco ひろしま〕

イ　全リン

全リンの経年変化は図表 3-2-16 のとおりです。

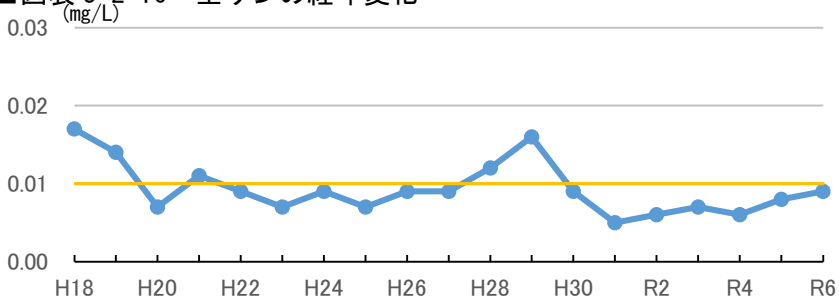
令和６(2024)年度の全リンは、年平均値は 0.009mg/L で 、0.01mg/L を下回り、環境基準に適合しています(図表 3-2-15)。

■図表 3-2-15　全リンの環境基準との比較

測定地点名	類型	年平均値 (mg/L)	環境基準値 (mg/L)	環境基準適否
弥栄ダム貯水池えん堤	Ⅱ	0.009	0.01 以下	適

〔資料：eco ひろしま〕

■図表 3-2-16　全リンの経年変化

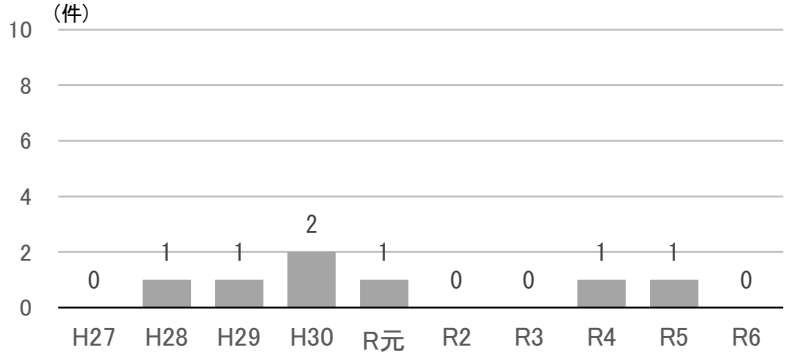


（４）水質汚濁公害苦情件数

水質汚濁公害苦情件数の経年変化は、図表 3-2-17 のとおりです。

令和６(2024)年度の苦情件数は０件で、この 10 年間はほぼ横ばいです。

■図表 3-2-17　水質汚濁公害苦情件数



第３節　騒音・振動

１　監視体制

本市の環境騒音の測定地点は、一般地域 38 ヶ所、道路端 6 ヶ所です（図表 3-3-1）。測定は毎年半数ずつ（一般地域 19 ヶ所、道路端 3 ヶ所）行います。

２　現状

騒音の環境基準達成状況は、図表 3-3-4 のとおりです。令和６(2024)年度の、昼夜を合わせた環境基準達成率は、一般地域においては約 95%、道路端においては約 67%となっています。

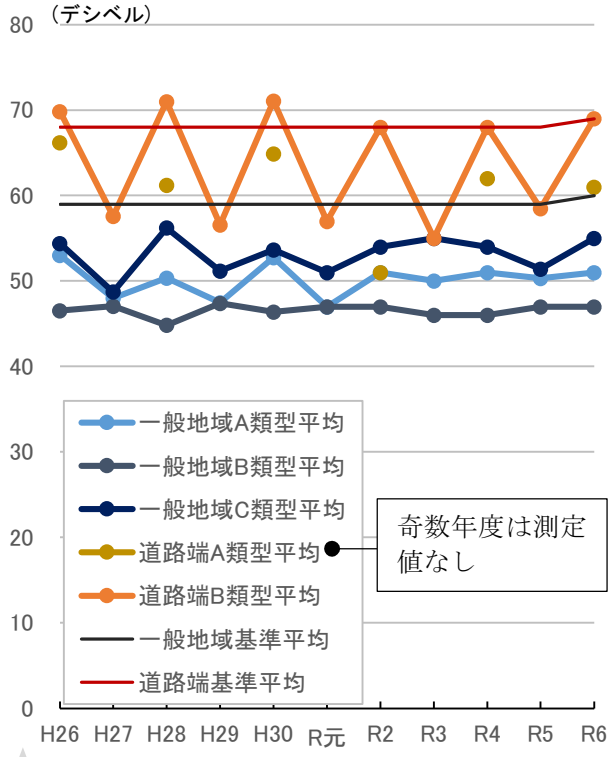
騒音・振動の公害苦情件数は、図表 3-3-3 のとおりで令和６(2024)年度は２件でした。

※環境基準については資料編 P13～21 を参照。

■図表 3-3-1　騒音測定地点

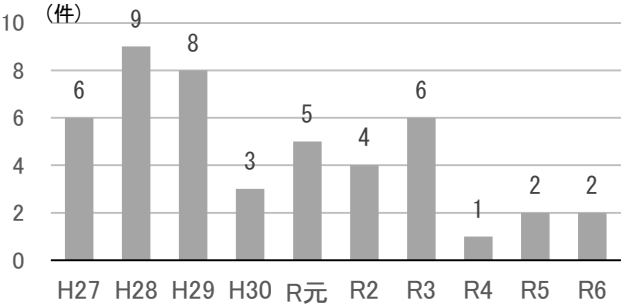


■図表 3-3-2　類型別平均値の経年変化



類型ごとにさらに詳細な区分があり、グラフに示す測定値及び基準値はこれらを平均化した参考値です。令和６年度の詳細な測定値は資料編 P18～19 に掲載しています。

■図表 3-3-3　騒音振動公害苦情件数



■図表 3-3-4 環境騒音の環境基準達成状況（令和６年度）

			A 類型	B 類型	C 類型	計
一般地域	昼間	測定件数	9	8	2	19
		達成件数	9	7	2	18
		達成率	100%	88%	100%	95%
	夜間	測定件数	4	4	1	9
		達成件数	4	4	1	9
		達成率	100%	100%	100%	100%
道路端	昼間	測定件数	1	2	—	3
		達成件数	1	1	—	2
		達成率	100%	50%	—	67%
	夜間	測定件数	—	1	—	1
		達成件数	—	0	—	0
		達成率	—	0%	—	0%

※昼間：６時～22 時、夜間：22 時～６時

第４節　悪臭

１　監視体制

「悪臭防止法」に基づく規制区域図は、図表 3-4-1 のとおりです。

本市では、「悪臭防止法」及び「悪臭公害防止対策指導要綱（平成 5(1993)年制定)」に基づく事業所などへの臭気測定の立入調査を行っています。

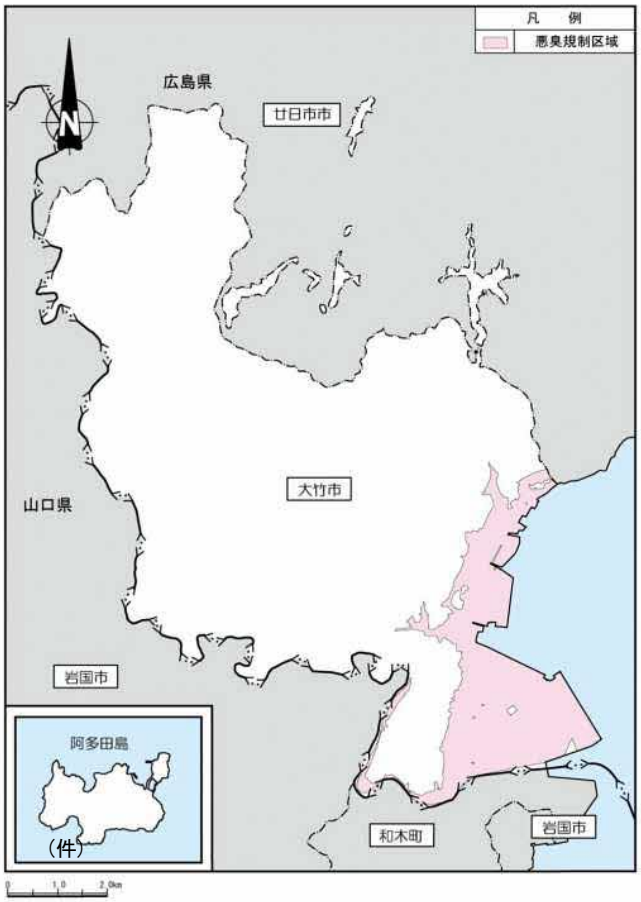
２　現状

立入調査における基準超過状況は、図表 3-4-2 のとおりです。

また、悪臭の公害苦情件数は、図表 3-4-3 のとおり、令和６(2024)年度は３件でした。

※基準については資料編 P22～26 を参照。

■図表 3-4-1　悪臭防止法に基づく規制区域図

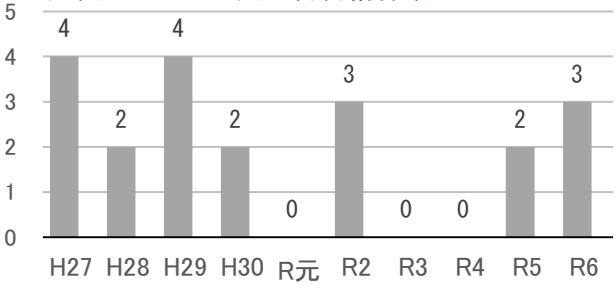


■図表 3-4-2　臭気測定基準等超過検体数

年度	該当基準	検体数
H２	悪臭公害防止対策指導要綱	7/12
R３	悪臭公害防止対策指導要綱	2/6
R５	悪臭公害防止対策指導要綱	1/6
R６	悪臭公害防止対策指導要綱	1/6

※基準超過検体数/調査検体数

■図表 3-4-3　悪臭公害苦情件数



詳細データ

悪臭苦情月別件数の推移

年度＼月	4 月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	該当地区
H26										1			1	新町
H27			2		1		1						4	新町、立戸、玖波×2
H28		1				1							2	新町、立戸
H29			2		1						1		4	新町、立戸、小方、黒川
H30	1						1						2	白石、立戸
R 元													0	
R２		1			2								3	西栄、油見、その他
R３													0	
R４													0	
R５						2							0	東栄、立戸
R６					2			1					3	小方、玖波×2

第５節　土壌・化学物質

１　監視体制

「ダイオキシン類対策特別措置法」に基づき、ダイオキシン類による大気の汚染、水質の汚濁（水底の底質の汚染を含む。）及び土壌の汚染に係る環境基準が定められました。令和６年度も広島県等により、大気の汚染や水質の汚濁（水底の底質の汚染を含む。）に関する調査が実施されました。

また、事業者による化学物質の自主的な管理の改善を促進し、環境保全上の支障を未然に防止することを目的として「特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律」（PRTR 法）が、平成 12(2000)年３月 30 日から施行されています。令和３年 10 月には改正政令が公布され、令和５年４月より対象物質が、これまでの 462 物質から 515 物質に変更されました。

２　現状

令和６年度ダイオキシン類環境汚染状況調査によると、本市におけるダイオキシン類による汚染・汚濁状況は、すべての地点（大気、水質及び水底の底質各地点）において、環境基準に適合しています（図表 3-5-1）。

令和６年度の PRTR 法に基づく市内届出事業所は 16 社あり、業種別では化学工業が７社と最も多く、次いで燃料小売業の４社、パルプ・紙・紙加工品製造業の１社、プラスチック製品製造業の１社と続きます。

特定化学物質の届出排出量[注 1)]と移動量[注 2)]は、図表 3-5-2 のとおりです。

令和６年度の排出量は 320 トンで移動量は 662 トンとなっています。内訳は、図表 3-5-3 のとおりであり、大気への排出と廃棄物としての移動が多くなっています。

大気への排出や廃棄物へ移動された特定化学物質は、図表 3-5-4 のとおりでした。

注 1）排出量：生産工程などから排ガスや排水等に含まれて環境中に排出される第一種指定化学物質の量。

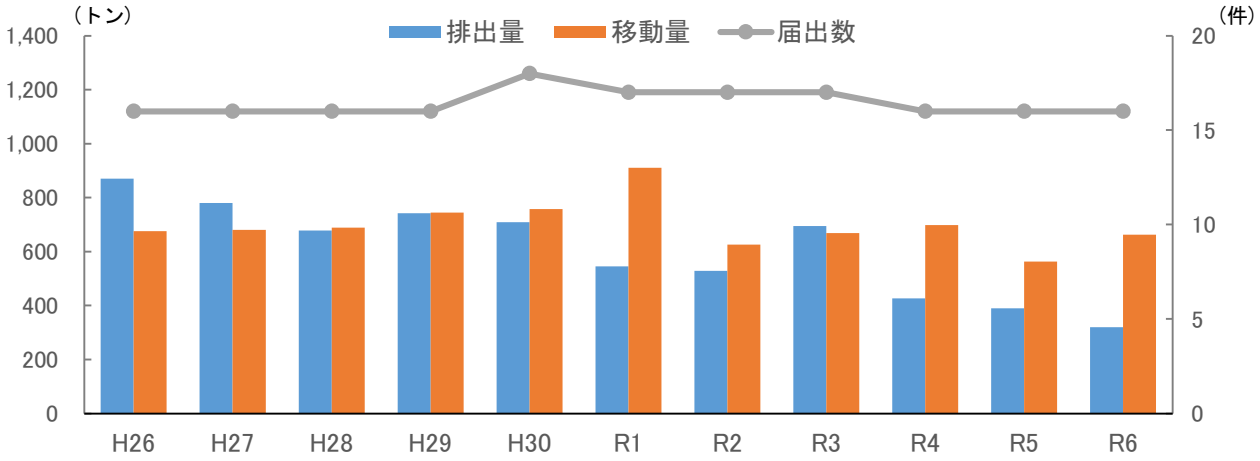
注 2）移動量：事業活動にかかる廃棄物の処理を事業所の外で行うことに伴い事業所の外へ移動する第一種指定化学物質の量。

■図表 3-5-1　ダイオキシン類環境汚染状況調査結果

区分	単位	調査地点	調査結果		環境基準	環境基準適否
			年平均値	実測値		
大気	pg-TEQ/m^3	大竹油見公園	0.0058	夏季：0.0058 冬季：0.0057	年平均値 0.6 以下	適
水　質	pg-TEQ/Ｌ	小瀬川　両国橋	0.08		年平均値 1 以下	適
底　質	pg-TEQ/ｇ	小瀬川　両国橋	0.23		150 以下	適

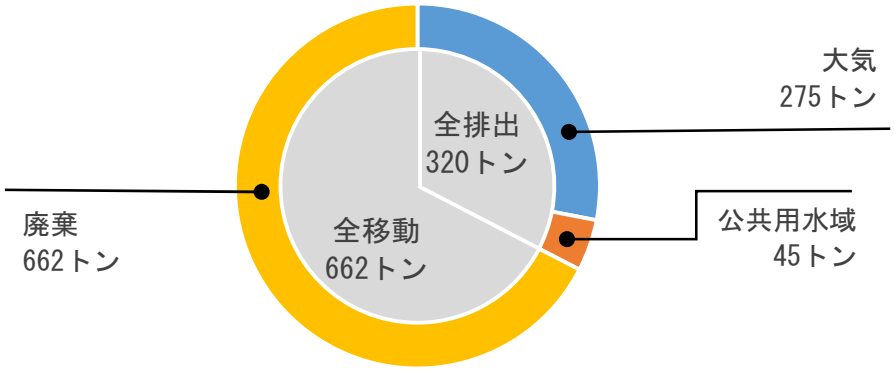
〔資料：eco ひろしま〕

■図表 3-5-2　本市における特定化学物質の排出量及び移動量の推移

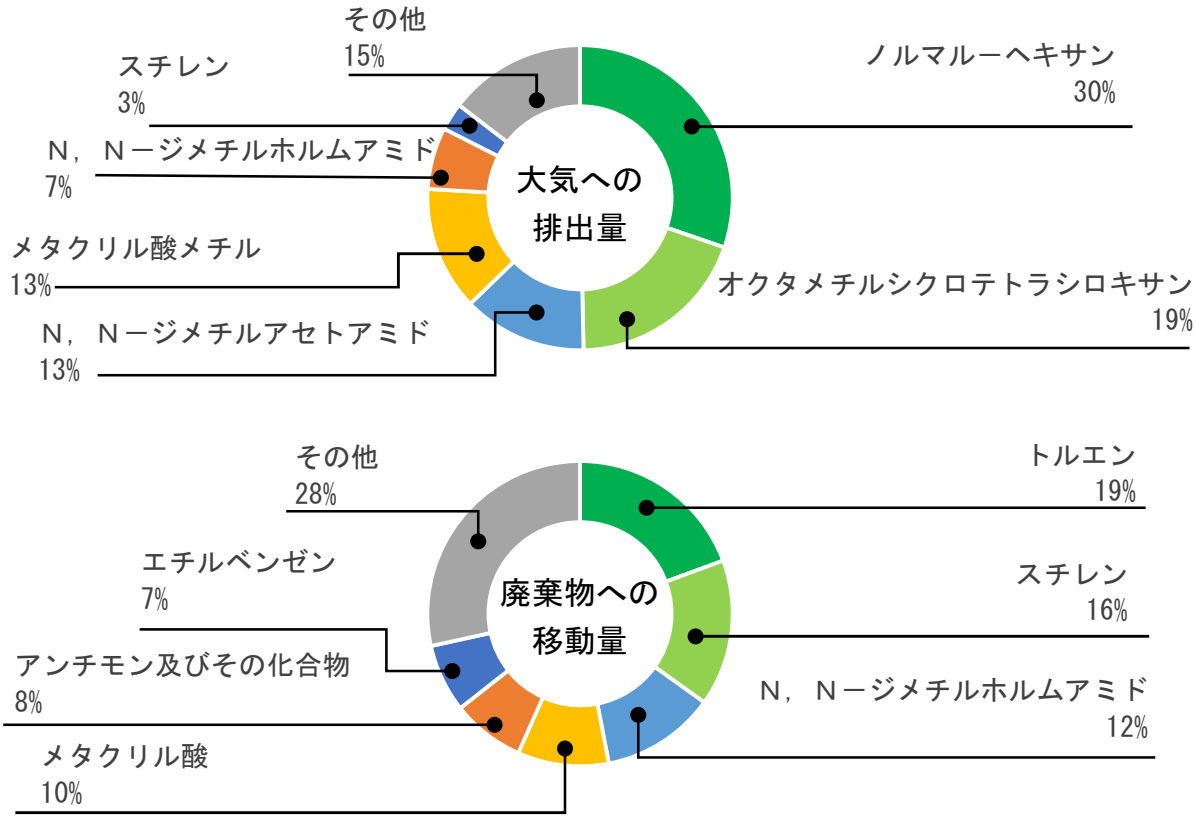


〔資料：環境省資料〕

■図表 3-5-3　本市における特定化学物質の排出量及び移動量の内訳



■図表 3-5-4　本市における特定化学物質の大気への排出量と廃棄物への移動量の物質ごとの内訳



〔資料：環境省資料〕